

農たび・北海道ネットワーク研修会

参加費
無料

～ 旅行者から選ばれ続ける地域になるための、今後の取組のヒントがつかめる～



日 時 令和5年12月11日(月) 13:00～17:00 (12:30開場)

会 場 第二水産ビル4階4S会議室 (札幌市中央区北3条西7丁目1番地)

目 的 各地域の取組を共有し、情報交換による地域の連携強化を図るとともに、地域資源を活かした企画、運営、情報発信等の手法を学ぶことにより、農泊などの農村ツーリズム(愛称「農たび・北海道」)の取組を推進することを目的として「農たび・北海道ネットワーク研修会」を開催します。



都会には体験できない時間がある
～「農たび・北海道」～

参加対象 農泊などの農村ツーリズムに関心のある団体・個人、実践者、農林漁業者、市町村、観光協会、商工会議所、商工会、農業協同組合、漁業協同組合、森林組合、土地改良区、関係団体・機関等

開催方法 会場参加(対面形式) + オンライン参加(ZOOM形式)

プログラム(予定)

参加申込方法は
裏面をご覧ください

1 開会・挨拶

2 情報提供

- ・ 令和6年度 農泊推進に活用できる交付金事業概要について(説明者: 農林水産省)

3 基調講演



観光客と地域の両方に満足と感動を与える体験交流プログラムづくり!
～アドベンチャートラベルの考え方を参考に～
(株)北海道宝島旅行社 代表取締役社長 鈴木 宏一郎 氏

4 地域活性化や所得向上を図るため、都市と農村の交流促進の先進地事例紹介



①畑のコンシェルジュ「かしづく」がお連れする赤井川村の収穫祭!
～都市と農村をつなぐ、新鮮さと美味しさで笑顔になる体験プログラム～
野菜や加工品のお店 かしづく 代表 須藤 絵利香 氏



②オホーツクと旅人をつなぐ交流拠点施設「コネクトリップ」!
～来訪者が魅了される地元の産業・自然・ふれあいを活かした旅～
コネクトリップ 副会長 道山 マミ 氏



③行きたい! また、来たい! 「十勝ガールズ農場」のワクワク食農体験!
～楽しさで一杯になるエンターテインメント性を持たせた体験～
(株)アグリファッショングループ 代表取締役 橋爪 恒雄 氏

5 パネルディスカッション (進行: 基調講演者、パネラー: 事例紹介者)


6 「農たび・北海道」をテーマとしたPR企画 (大学生考案) 協力 札幌大谷大学




主催 北海道農政部農村振興局農村設計課 (電話 011-206-6490)

● 申込期限：令和5年12月5日(火)まで

● 申込方法：申込みは、次の①～③のうちの方法かで申込みください

①  URLにアクセスして申込み → <https://www.harp.lg.jp/9FFI5VQq>

②  2次元コードにアクセスして申込み → 

③  FAXでの申込みは、次の各欄に記載しFAX願います

FAXでの参加申込み記入用紙（FAX申込先：011-232-0027）

参加者氏名		電話番号	
参加方法(丸印記載)	会場参加・オンライン参加	勤務先市町村名	
オンライン参加者はメールアドレス記載		職業・お勤め先を記載	

※オンライン(ZOOM)参加の申込みの方には、記載された登録のメールアドレスへ、セミナー当日のアクセス先URL等を、12月8日(金)に主催者側からメールにてお送りします

基調講演・事例の紹介（観光客から選ばれ続けるための今後の取組のヒントに！ ）

<基調講演>

(株)北海道宝島旅行社 代表取締役社長 鈴木 宏一郎 氏

2007年に(株)北海道宝島旅行社を設立。来道する富裕層インバウンド観光客へのオーダーメイドツアーサービスの提供、体験プログラムのポータルサイト「北海道体験」の運営、地域ならではのプログラム造成支援等を展開。地域の魅力を価値に変え、観光客と地域の両方に満足を提供するという他地域に参考になるモデルを創出したとして、2018年に「第2回日本サービス大賞<優秀賞>」、2023年に「第7回ジャパンツーリズムアワード<審査委員特別賞>」受賞。



<先進地事例紹介①> 野菜や加工品のお店 かしづく 代表 須藤 絵利香 氏 (赤井川村農泊推進協議会)

赤井川村で地域おこし協力隊として任期満了後に、2021年に「かしづく」を設立。「かしづく」は、赤井川村産の野菜や加工品を全国に発送するECサイト運営のほか、都市と農村をつなぐ「畑のコンシェルジュ」として農家から畑を借りて「かしづくが生産者のもとにお連れし、ガイドする収穫体験」を企画・実施しています。その場で収穫野菜を丸かじりできる「朝もぎ収穫体験」や、自分で収穫した野菜を素材にシェフが夕食時に料理として提供する「ディナー食材の収穫体験」など、新鮮さと美味しさで笑顔になる取組をご紹介します。



<先進地事例紹介②> コネクトリップ 副会長 道山 マミ 氏 (オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム推進協議会)

2019年に開設した「コネクトリップ」は、地域活性化や所得向上の優れた取組を表彰する「ディスプレイ農山漁村の宝」で、2022年に優秀賞を受賞。国定公園の景観を楽しむカヤック体験、オホーツク産玉ねぎの皮での染め物体験、ワカサギの氷下漁の見学ツアーなど地元の産業や自然環境を活かした四季折々のプログラムの提供や、小中学校に地元の産業を学ぶ座学・体験学習の提案など、来訪者が魅了されるコネクトリップが提案する新しい旅の取組をご紹介します。



<先進地事例紹介③> (株)アグリファッシュングループ 代表取締役 橋爪 恒雄 氏 (十勝域内「農・泊」観光連携協議会)

「十勝ガールズ農場」は新規就農女性が集まり、「観光融合型農業(農業・観光・飲食)」を目指し、2016年に設立。サイズが通常の50分の1程度の野菜「マイクロ野菜」や、13種類の「カラフルポテト」、カラフルな粒の「七色コーン」など、食べるだけでなく見て楽しめる野菜を栽培するほか、収穫体験、収穫野菜をキッチンカーで食べる「畑カフェ」、トラクター運転体験、馬耕体験、ドローンによる記念撮影、団体旅行はジャガイモ1トン掘りなど、畑にエンターテインメント性を持たせた食農体験の取組をご紹介します。

